令和8年度　1年　技術科指導計画・評価計画

学期	月	単元名	時数	学習内容	各単元における観点評価規準		
					知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に取り組む態度
1学期	4	【ガイダンス】 技術の役割 技術と生活・産業 技術とエネルギー・環境 受け継がれ発展する技術	2	さまざまな技術 技術分野で学ぶ4分野 技術分野の学習の目標 日本の現代技術について 日本の今後の技術について	日常生活に使用されている技術の必要性を理解し、技術を活用できる。 現代で使用されているPCやタブレットなどの機器を扱うことができる。技術の必要性や役割を理解し、わたしたちの身の回りにある技術を知っている。	日常生活に存在する技術を理解し、自分の生活に役立てられるよう、工夫して考えることができる。今後の技術において、日常生活がよりよくなるよう新しい考えを創造・表現することができる。	技術の4分野に興味・関心をもち、授業に取り組むことができる。 技術が人間の生活を向上させ、産業の継承と発展に影響を与えていることに気づき、技術が果たしている役割について関心を示している。
	5	【D情報に関する技術】 ディジタル作品の設計と制作 コンピュータの基本操作	2	Wordで自己紹介文制作	ローマ字入力を理解している。情報機器の名称と操作方法を理解している。Wordの扱い方を理解している。ローマ字入力ができる。 Wordの操作方法を理解し、文書を作成できる。	Wordを使用する際、レイアウトやデザインなどを創造することができる。情報発信する際のモラルについて考え、必要な情報を取捨選択することができる。	情報機器に関心を示している。Wordに関心を示し、意欲的に作業している。自分の作品に対しての振り返りを行い、次へつながるよう考えようとしている。
2学期	5	【A材料と加工に関する技術】 材料を利用するための技術 問題解決の手順 製作のための技能 製図	2 3	ものづくりの作業工程 木材の特徴、金属の特徴 等角図、キャビネット図 正投影図	ものづくりにおける作業工程をきちんと理解している。道具の名称と使用方法を理解し、適切に扱うことができる。材料と特徴や性質を理解している。製図に置いて、三つの図法を理解している。作業工程における安全面についてきちんと理解している。一連の作業を振り返り、他者の作品を見比べながら自分自身で反省と修正ができる。材料の特徴を理解し、材料の性質にあった作業ができる。 等角図、キャビネット図、正投影図の三つの図法で描くことができる。道具の名称や使用方法を覚え、適切に扱うことができる。	材料の特性を理解し、作業をする際に自分の作業効率を考え、工夫した取り組みを考えることができる。 材料の性質や繊維方向に注意し、適切な作業手順を考えることができる。 製図において、三つの図法を理解し、立体図を想像し書くことができる。 作品をよりきれいに仕上げるための工夫ができている。 完成した作品を振り返り、次の機会に活かせるような反省と修正ができる。	ものづくりについて興味関心を示し、意欲的に取り組んでいる。材料の特徴について、興味を示し、考えることができる。 三つの図法を書くことに対して、意欲的に取り組んでいる。 作品をより良くするために、一つ一つの作業を丁寧に行える。検査修正の際、自分で改善しようと、意欲的に取り組んでいる。自分の作品をきちんと振り返り、次に生かせるよう反省ができる。ノートまとめや授業プリントにしっかり取り組めている。
	6 7 8 9 10 11 12	◆木材による製作 製作実習 ウッドクロック フォトスタンド まとめ	3 3 2 2 2 2 2	木材の罫書き、切断 部品加工 切削 組み立て 検査修正・仕上げ 製作品のまとめ 振り返り			
3学期	1 2	【D情報に関する技術】 生活や社会と情報の技術 情報とコンピュータ	5	情報の技術とその役割 情報を処理する仕組み コンピュータの構成 コンピュータの基本操作 タイピング練習	技術とその役割について理解し、適切に扱うことができる。情報機器の名称と扱い方を理解している。タイピングの基本操作を理解している。情報を処理する仕組みを理解し、情報機器を活用できる。 情報機器を適切に扱うことができる。タイピングが速くできる。	情報に関する技術を場面に応じて利用できる。 タイピングを速くするための工夫ができる。	情報社会に関心をもち、意欲的に取り組んでいる。 コンピュータの構成や基本操作について、より良い活用方法をするための関心がある。
	3	情報セキュリティと情報モラル これからの技術	4 1	利用する時のモラル 人権や個人情報の保護 知的財産の保護	情報モラルについて理解し、適切な判断ができる。情報を発信する際の利点と欠点を理解し、人権や個人情報に配慮していく必要性を知っている。情報機器を適切に扱うことができる。情報を扱う際に、発信者と受信者の立場でものごとを考えることができる。	情報を扱う際に、発信者や受信者の立場で物事を考えることができる。 情報機器を扱う際の利点と欠点を想像し、工夫して考えるができる。 情報の扱い方や判断が正しくできる。	情報モラルについて興味をもち、意欲的に取り組んでいる。 主体的に考え、自分の立場になって考えようとしている。 情報の大切さを理解し、正しく扱おうとしている。

令和8年度　1年　技術科指導計画・評価計画

配当時数（合計）	35	評価方法	期末考査（知識の観点） 期末考査（技能の観点） Wordの作品、製図 木材加工作品 PC技能、小テスト等	期末考査（思考・判断の観点） 作品の工夫 作業工程における作業手順の工夫 授業単元における課題と改善策 授業ノート、授業プリント	授業ノート、授業プリント 技術家庭ノート(ワーク) 作品製作への態度 忘れ物 授業に取り組む態度（授業観察等）